

# 大沼で見られる野鳥

はじめに

大沼では、196種の野鳥が観察できると言われています。  
この数は、北海道で観察される野鳥の約半数に相当します。  
そのことから大沼は水鳥をはじめ野鳥の宝庫と言えるでしょう。

今回の文化祭では身近に見る野鳥を写真と共に紹介し  
多くの方に野鳥を通じて**大沼**という環境の魅力を感じて  
いただければと思っております。



**クマゲラが突いた穴**

参考文献 七飯町史  
北海道の野鳥  
フィールドガイド日本の野鳥  
日本の野鳥の会野鳥図鑑  
写真提供 小林 幸市（函館市在住）  
写真提供 大野 喜久男（鹿部町在住）  
作 成 大沼森林公園ボランティア

# 野鳥の見分けるためのポイント

## 1) 大きさを比べる

野鳥は、許可なくとらえることができません。

よくみられる鳥の大きさを、イメージして比べるようにしましょう。

野鳥は小型の種類が、多いのでスズメサイズが、基準となります。



スズメ

(13センチくらい)



ハト

(30センチくらい)



カラス

(45センチくらい)

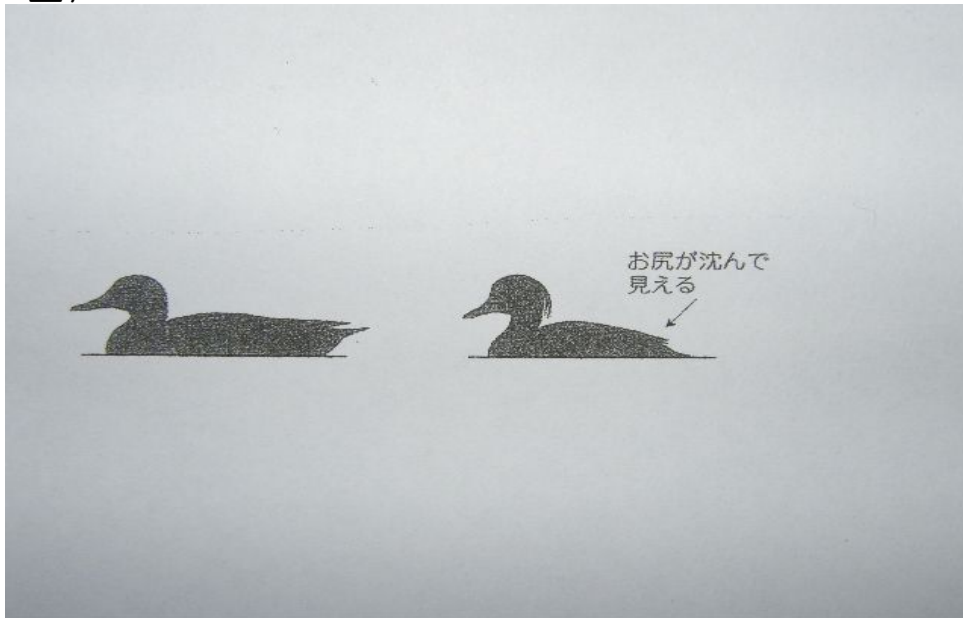
種類を見分けるポイントとして、大きさ・形や姿・動作・声などがあります。鳥の鳴き声には、**さえずり**と**地鳴き**に分かれ多くは春先の繁殖時期にオスの**さえずり**です。

ウグイスのホーホケキョは**さえずり**です。また地鳴きにはオスメス問わない単純な鳴きかたで警戒を意味する声などです。

中には同じ鳥でも色々な鳴き方があり専門の人でも迷うことがあります。(ゴジュウカラ・ヒヨドリ・クロツグミなど)

## 2) 形や姿など

〈水面〉



### もぐらないカモ類

カルガモ・マガモ・オシドリなど

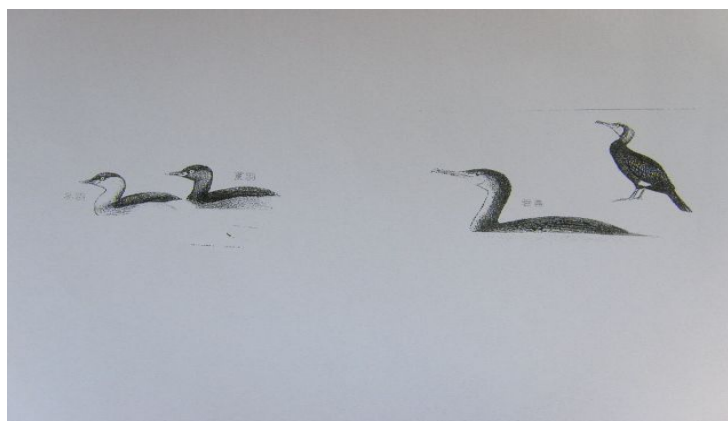
(おしりが上がってます)

### もぐるカモ類

キンクロハジロ・カワアイサなど

(おしりが下がってます)

\*そのほかカモ類ではありませんが、ウやカイツブリなどは潜水が得意です。



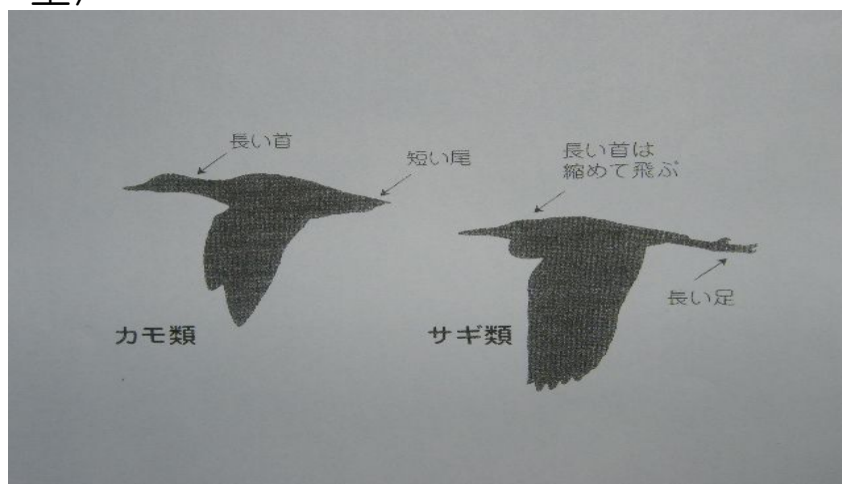
### カイツブリ

淡水にいる鳥では最小

### カワウ

繁殖期に頭と足の付け根に白い羽が生じます

## 〈上空〉



カモ類は首を伸ばして飛びます      サギ類は首をちぢめて飛びます



タカ類は大きく羽を広げて上空をぐるぐるよく回ります

## 〈小鳥〉

森林の中には多くの小型の鳥たちがいます。

これは虫や木の実が、多いことが考えられます。大沼内で観察されてる鳥の約50%は、小鳥の分類です。

シジュウカラ・ホウジロ・オオルリ・ヤマガラ・キビタキ・アカハラ・ツグミ・メジロ

ゴジュウカラ・など (約100種)

# 野鳥のおもしろ雑学

## ■ 鳥は大食い

空を飛ぶには軽い体を保たねばなりません。(シジュウカラなど約10g)  
それでひんぱんに食べてはフンをします。活動的で  
たくさんのエネルギーを必要としますので栄養が高い  
物を食べます。小魚や虫などが多いです。

## ■ ハトは、ヒナにミルクを与える

オスメス共に栄養の高いミルク状の液体を持ちヒナに与え  
ます。そのおかげで小鳥のようにひんぱんにエサを与える  
必要がありません。また繁殖期間が長いのもこのことと  
いえます。

## ■ ウの仲間は羽を広げて乾かす

岩や木の上でウが、よく羽を広げた姿を見たことがある  
と思いますが、これは他の水鳥と比べてウの羽には油分  
が少ないため水中に潜ったあとは、よく乾かします。  
深く潜りやすいため羽になってるのです。



## ■ 卵の形はどうして楕円なのか

卵が球形だと巣のなかから転がり落ちてしまいがちです。  
机の上でゆで卵を転がしてみると円をえがいて戻りますよね。  
それで落ちにくいのです。それにしてもよく考えてますね。

# 野鳥観察の楽しみ方さまざま

ここでご紹介した野鳥の説明は、ほんの一部ですが**大沼の**野鳥たちは、春夏秋冬で色々な鳥がいます。自然観察や散歩の途中で鳥を見たら少しでも興味を持ってください。もし鳴き声が聞こえたら耳をすまして聞いてみてください。一定のリズムや連続音だったり色々な音が聞こえるでしょう。また枝に止まってる姿を見たらどんな行動しているのか、チェックしてみてください。双眼鏡があればより詳しく観察できますよ。

少しでも興味を持つようになりましたら町や日本野鳥の会の探鳥会に参加してください。ベテランのリーダーがやさしく教えてもらえます。

**そこで注意していただきたいことがあります。**

- 1) ひなが木の下などに落ちてる場合がありますができるだけ手助けをしないでください。これは親鳥から引き離すことになります。これは親鳥とともにいるわずかな期間に危険や食べ物について学習し独立していくヒナにとって貴重な期間を奪うことになります。そっとしておいてください。
- 2) 庭に来ている野鳥にエサを与えている場合が、ありますが繁殖期間(春～秋)は与えないでください。野鳥の習性や生態系に及ぼします。もし与えるようでしたら冬に少しくらいでしたら良いと思います。
- 3) 写真撮影でよく長時間シャッターチャンスを狙っているカメラマンがいますが鳥たちにとっては迷惑です。ときには親鳥が卵を放棄したりエサを与えられないでいる場合があります。けして同じ場所で長時間撮影しないでください。大沼の自然を守っていくためにもご協力お願いします。

〈木の幹をつかう〉

■ 森の中で、木をコンコンと大きくたたく音を聞いたことあると思いますが、これは**キツツキ**の仲間です。これを**ドラミング**といいます。木をつついて虫などをみつけて長い舌でからめて食べます。またこのドラミングは、繁殖期にはなわばり争いでも行います。ほとんどの種は、木の幹に立てにとまり前足2本後足2本と尾羽でしっかりと幹にとまります。（他の鳥は前足3本後足1本）



アカゲラ・オオアカゲラ・クマゲラ・ヤマゲラ・コゲラ・アリスイ

■ 皆さんおなじみのフクロウは、幹を使う代表の鳥ですね。フクロウ類は両目が、人間と同じ様に前面に付いていて、両眼で見る範囲は広いですが全部の視野は、せまいです。そのため首をぐるぐるまわすことで180度以上見られます。また遠近の感覚がはっきりとれて聴覚も発達しています。羽の構造も他の鳥とちがってやわらかく羽ばたく音もせずに獲物をとれるのです。

このように観察していると色々な鳥を見つけられ楽しくなると  
思います。見つけたら図鑑などで調べてみましょう。